

# こどもの病気対策法⑬①

## －百日咳－

小宅医院 小 宅 民 子

百日咳は百日咳菌による急性の呼吸器感染症です。感染力が強く、1才以下の乳児、特に6か月未満の乳児がかかると呼吸不全に陥り死亡することもあります。

感染経路は、患者さんの咳やくしゃみによって感染する飛沫感染や接触感染です。周囲に感染させる期間は咳開始1週間前から3週間後といわれています。

症状は大きく3つに分けられます。軽い風邪症状で始まり、次第に咳が激しくなる（カタル期）、激しく咳き込み、最後にヒューと息を吸い込むような咳発作が続く（痙咳期）、次第に発作が減り回復していく（回復期）です。全経過2〜3か月で回復します。しかし、新生児・乳児と一部の成人ではこうした経過をとらないことも多くみられます。また新生児から生後3か月までの乳児の場合、百日咳に特徴的な咳はみられないこ

とが多く、無呼吸やチアノーゼをきたすこともあります。けいれんや脳症などを起こして死に至ることもあるので注意が必要です。

治療は、マクロライド系の抗菌薬を投与します。カタル期の早期に投与するとより有効とされています。

百日咳はワクチンで予防できます。生後3か月から4種混合ワクチン（ジフテリア、百日咳、破傷風、不活化ポリオワクチン）が接種できます。しかし、百日咳のワクチンの効果は数年から10年前後で低下するため、小学校入学前に追加の予防接種が必要です。日本小児科学会では、3種混合ワクチン（ジフテリア、百日咳、破傷風）と不活化ポリオワクチンの接種を推奨しています。任意接種のため有料ですが、ぜひ小学校入学前に追加接種をしましょう。

## 百日咳の5つのポイント

- ・ 百日咳は百日咳菌による急性の呼吸器感染症。
- ・ 新生児や生後6か月未満の乳児がかかると重症化しやすい。
- ・ 症状は、軽い風邪症状から激しい咳発作へ変わり、2〜3か月で回復する。
- ・ 百日咳はワクチンで予防できる。まずは生後3か月からの4種混合ワクチンを。
- ・ 小学校入学前の3種混合、不活化ポリオワクチンの追加接種が必要。

